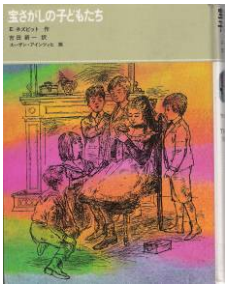
図書館員のひみつの本棚　第４４回

12 月になりました。クリスマスの季節です。
英米文学とクリスマスは切っても切れない存在。今回ご紹介する物語も最後はもちろんクリスマスでハッピーエンドです。

『宝さがしの子どもたち』
E・ネズビット／作　吉田　新一／訳　福音館書店　1974 年
1995 円　物語
＜お勧め年齢＞
幼稚園☆☆☆　小低学年☆☆☆　小中学年☆☆☆　小高学年★★★　中学生★★☆
高校☆☆☆　一般☆☆☆
（★が多い年齢の子どもにお勧めです。）
＜本の紹介＞
お母さんの死とお父さんの病気、そしてお父さんの病気中にお父さんと一緒に仕事をしていた人がスペインに行ってしまい･･･とかたむきかけたバスタブル家を建て直すために、宝さがしを決意した６人兄弟（一番年上で女の子のドラ、つぎは男の子のオズワルド（ラテン語で賞をとったことがあります）、それから同じく男の子のディッキー（算数の計算が得意です）、その次の女の子のアリスと男の子のノエルはふたごです（アリスは男の子と遊ぶの好きで、ノエルは詩を書くのが得意です）。そして、一番下がホレス・オクテイビアスという男の子です（この子は HO＜エイチ・オウ＞と呼ばれています）。
始めは、庭を掘り返してみます。それから探偵になってにせ金づくりを調査したり、ノエルの詩を売りに行ったり、新聞を作ってみたり、新聞に気前のよい広告を出していた「めぐさん」（お恵み深い人を短く言った呼び名です）に会いに行ったりと、兄弟たちが考えついたありとあらゆる方法を試してみます。
果たしてからっぽになってしまったバスタブル家の金庫はもとに戻るのでしょうか？
この物語の始まりに「この物語を書いているのは、この六人（兄弟）のうちのひとりですーが、だれであるかはかくしておきましょう」と書いてありますが、読み始めればあっという間にわかると思います。人の欠点は目につきますが、自分の悪口を書く人はあまりいませんからね。

＜子どもに手渡すときのポイント＞
この本は福音館古典童話シリーズの１冊です。このシリーズは読めばとても素敵な物語ばかりなのですが、活字が小さかったり、挿絵が少なかったりとなかなか子どもたちが手に取りにくいシリーズです。けれども読み始めれば物語の力が最後まで子どもたちを楽しませ、勇気づけてくれる物語ばかりです。ぜひ、始めの１ページを開くお手伝いを大人の人がしていただけると嬉しく思います。例えば、始めの何章かは読んで聞かせる、内容を少し噛み砕いて紹介する･･･など。

また、今回の「宝さがしの子どもたち」は本当に素敵な大人たちがたくさん登場します。こんな大人でありたい！そう思わせてくれる登場人物ばかりです。大人の皆さんもぜひ本の中でそんな登場人物たちと会ってみませんか？



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

子ども図書館　重村　さやか